

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」		
所在地	榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	平成27年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2990500049-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2990500049-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成26年11月25日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様には季節を感じて頂きたく努めています。気候が良くなったこの季節 近隣を散歩に出掛けて頂いております。お日さんに当たったり風に当たったりして欲しいと感じています。又裏の畑で作った野菜を日々の食事に取り入れて提供させて頂いています。そしてホームの玄関 正面には季節の花々を折り紙で利用者様と作って張り出しています。又どうしても座って過ごす事が多い中で少しでも意欲的に体を動かして頂く為に朝、夕の体操や移動パン屋さん ボランティアの方々の受け入れ等不穩の軽減に結びついている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームの理念は、会議で職員の意見を出し合い「安全に安心して穏やかに暮らして頂く」と掲げ、利用者を中心とした環境作りを大切に、ホーム会議で利用者が安全に過ごせるよう検討したり、穏やかに暮らせているかを確認しながら理念に沿ったケアを実践できるよう取り組んでいます。日々の職員同士の連携はよく、申し送りや日誌を利用し利用者へのケアの統一を図ったり、カンファレンスやホーム会議で意見や提案を出し合いサービスに反映しています。ホームに地域の方を招いて行われるニチイ祭りは、回数を重ね地域への広報の工夫を行い多くの方の参加を得られるようになり、中学生の吹奏楽の披露や職員とミニコンサートを行ったり、小さな子供との触れ合う機会にもなり、利用者と共に楽しめるような行事の開催に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全に安心してそして穏やかに暮して頂く」を目標に日々の寄り添うケアに取り組んでおります。目に着き易い場所に掲示してスタッフの自覚と意識付けをしています。	会議で職員の意見を出し合い「安全に安心して穏やかに暮らして頂く」とのホーム独自の理念を掲げ、利用者を中心とした環境作りを大切にしています。ホーム会議で利用者が安全に過ごせるよう検討したり、穏やかに暮らしているかを確認しながら、理念に沿ったケアを実践できるよう取り組んでいます。また新入職員には、入職時には理念について説明しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今回も第4回目のニチイ祭りを予定して居ります。地域の方や家族様にも来て頂けるようにペラを作成しスタッフで手分けしてポストイングにて1人でも多く参加して頂きたいと思っております。	自治会に加入し、年に一度の美化活動に職員が参加したり、行事の際には醍醐会館を利用させて頂きながら、地域に出かけることでホームのことも知ってもらえるよう取り組んでいます。ホームで行うニチイ祭りでは中学生の吹奏楽をはじめ多くの地域の方の来訪があり、交流を楽しんでいます。今後保育園児や小学生等との交流も検討したいと考えています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	入居の相談やホーム見学に来られた家族様に対して抱えておられる不安等聞きながら都度対応させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の会議にはホームの状況報告させて頂きスタッフと共に充実した会議になるように常に取り組んでいます。そこでのサービスの向上に繋げて行ける様に努めています。	会議は多くの家族や介護相談委員、市職員、地域包括支援センター職員等の参加を得て隔月に開催しています。ホームから行事や運営の現状報告を行い、参加者との意見交換を行っています。家族会の回数や日々のメニューの掲示について等の意見が出され、ホーム会議で検討しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護相談員さんを受け入れて貴重なご意見を聞いております。そして行政の担当の方に現場の実情を伝える機会を作っています。	市の担当者の運営推進会議への参加があり、議事録を窓口に直接持参しています。入退居の手続きに役所に行ったり、確認事項などがあれば電話をかけ気軽に相談できる関係が築かれています。行政の主催する研修案内が届いた際には参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開放的な環境作りに努めています。そして各委員会でも取り組んで正しく理解し意識付けをしてケアに取り組んでいます。	身体拘束委員会を中心にホーム会議で身体拘束をしないケアの基本やベッド柵や事例を用いて言葉による行動の抑制についても職員に伝えています。玄関やユニットの入り口等の施錠は行わず、利用者に外に行きたい様子があれば一緒に寄り添い出かけています。マニュアルを整備し新入職員には丁寧に伝えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	新しいスタッフが増えマニュアルは勿論の事ケアの中でも拘束の話しながら対応させて頂いております。そして又スタッフが心身共に元気で働ける環境作りに努めています。		

ニチケアセンター檀原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を活用している利用者様が居られるので今後も支援する機会があれば活用して行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後には利用者様家族様には要望を聞いて十分な説明を行い安心して利用して頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に1回運営推進会議及び家族会議を開催しています。そして出席者の方より貴重なご意見を聞かせて頂き要望にお答え出来るように努めております。	家族の来訪時にコミュニケーションを図ったり、運営推進会議や家族会、法人が行うアンケート等で意見や要望を聞いています。個々のサービスに対する要望には速やかに対応し、連絡方法を電話からメールに変更するなどの対応をしています。また、家族会についての意見を受けて食事会を兼ねて開催するなど、意見や要望を運営に反映しています。利用者には日々職員が要望を聞くと共に、定期的に介護相談員の来訪があり話を聞く機会を持っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム会議やカンファレンス等で個々の意見を聞くように努めています。	日々の職員同士の連携はよく、申し送りや日誌を利用し利用者へのケアの統一を図ったり、カンファレンスやホーム会議で意見や提案を出し合いサービスに反映しています。また、管理者は職員の様子をみて個人面談をしたり、職員アンケートを行い、意見を聞いています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ働きやすい環境作りに努めています。人的環境が一番であると共に出るだけ個々の話を聞くようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出来るだけ調整していません。働きながらのトレーニングはその時々併せて必要な声かけを行う努力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談員派遣事業における三者間連絡会に参加させて頂き同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの向上に努めています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをきちんと踏まえ本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に要望や意見を聞いたり関係作りに心掛けています。そして安心して頂ける様に何時でも電話にてお話させて頂いたり対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を元に話し合い必要なケアをスタッフ一同徹底し行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から教えて頂く事が多々あります。日常生活の中で何か負担にならないよう役割を持って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の思いを尊重し共に理解し支援出来る様に努めています。又行事にも参加して頂き交流を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族様と一緒に外出に制限は無いことをお伝えし入居の習慣などが制限されず継続できるよう支援しています。	友人や知人等が面会が来られた時には和室を提供したり居室でゆっくりと過ごしてもらっています。馴染みのスーパーに買い物に行ったり、親戚等との電話の取次ぎや年賀状のやり取り等の支援を行い、これまでの馴染みの関係継続の支援に努めています。家族の協力のもと墓参りや外泊する方もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来るだけフロアーで過ごして頂ける雰囲気作りに努めています。又スタッフが利用者様とのパイプ役となり円滑な交流が持てるように努めている。		

ニチイケアセンター檀原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で1人ではなく個々の思いに沿った関わりが出来る様努めています。行動を強制する事無く自然な状態で1日1日を過ごして頂いています。	入居時に以前利用していたサービス事業所からの情報を得たり、本人や家族から生活歴や好み等を聞き取り、意向や思いの把握に繋がっています。日々利用者が選ぶ機会を作るよう話したり、コミュニケーションを図り得た情報をカンファレンスで本人本位に話し合い思いを把握しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時本人や家族からの情報を得られるよう努めています。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態を把握し全員で共有し少しの変化にも対応できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	本人の思いや家族の意向、アセスメントを基に、介護計画を作成しています。日々の計画の実施を記録でチェックできるようにし、3~6か月毎にモニタリングで達成度や本人・家族の意向を確認し評価を行い見直しています。見直しに当たっては、医師のアドバイスも事前に聞いたうえでサービス担当者会議を実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌 介護記録 申し送りなどスタッフで共有しケアに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。		

ニチケアセンター檀原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	皆さんが活き活きと暮せるように支援させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医 当診療所との連携を計り協力体制を作り支援させて頂いています。	入居前のかかりつけ医を継続している方もおり、受診は家族が支援し家族を通して情報のやり取りをしています。ホームの2つの協力医からの往診を月に2回受け、24時間連絡が取れ指導を受けたり、随時の往診に来てもらえることもあります。歯科の往診は毎週来てもらい、希望や必要に応じて診てもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護日誌の情報提供で家族様 医療 介護が連携をとれるように行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には本人の状態を見ながら病院側との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごして頂ける様に主治医や家族様と相談しながら支援に取り組んでいます。	入居時には常に医療が必要となった場合は対応できないことを伝え、その時々状況に応じてできる限りの支援をしています。利用者が重度化した場合には医師から状況説明を受け、家族の意向を確認しホームでの暮らしの継続や他施設への転居等を相談しながら決めていきます。訪問看護の利用や家族の協力を得て、医師とも話し合いながらホームで看取りの支援をした経験もあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の消防訓練を実施しています。そしてAED設置 応急手当の講習会も定期的に行い実践力を見に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網を張り出し意識を持って努めています。	年に2回行う消防訓練の内1回は消防署の立ち合いの下、昼夜を想定し通報や初期消火、避難誘導等の訓練を実施しています。自主訓練ではマニュアルや連絡網等の確認も行っています。今後地域の訓練への参加やホームの訓練へ地域の方の参加案内等を行い、協力体制に向け取り組みたいと考えられています。	地域との協力体制について深めたいと考えられていますので、消防団への協力依頼や近隣の方々へホームの訓練に参加案内等から始められてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を敬称し傾聴で対応しスタッフ全員で取り組んでいます。	職員は接遇マナーの研修を受け、日々の関わりの中で利用者の尊厳を守る対応に努めています。関係ができて親しくなり、慣れ合いになった時にはその都度注意しています。苗字で呼ぶことを基本としていますが、利用者の状況によって旧姓や名前でも呼ぶこともあり、そのことが当たり前とならないよう考える機会を持っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で対応し利用者様を尊重するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたい事や身体状況を見ながら取り組み支援出来る事に努めています。そして充実した1日を過ごして頂ける様にコミュニケーションを取っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っているお洒落心を大切にその日の服装を選んで頂き又その日その日の声かけ等させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や好みに合った食事の提供に努めています。準備から後片付けも利用者様と共に行っています。	献立は利用者の希望を聞きながら担当の職員が立て、一緒に買い物に行ったり食材を発注し、利用者に皮むきや味見、盛り付けなどのできることに携わってもらいながら食事作りをしています。ホームの畑で採れたものが食卓に上がったり、ぜんざいやホットケーキ等のおやつを手作りすることを楽しんでもらっています。時には外食したり弁当を持参し花見に出かけています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量も記録して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケア、昼のうがいは励行そして付き2回のデンタル訪問で口腔ケアマッサージを行っています。		

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握する事によって1人1人の排泄用品で心地良い自立支援に努めています。	個々の排泄記録からパターンや習慣を把握し、其々のタイミングでトイレに誘導しています。また、立ち上がった時排泄のサインが見られた時にも支援し、失敗が少なくなった方もいます。パッド等の排泄用品の選択や支援の方法などをカンファレンスで話し合い、現状維持や自立に向けた支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態 毎日の水分補給又適度な運動 日々の散歩など取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望に応じて朝から入浴して頂くことも有ります。又入浴剤も入れて気持ちよく入って頂くように取り組んでいます。	入浴は毎日午後の時間に準備し、週に2~3回は入れるように支援しています。希望や状況により午前中や毎日、複数の職員がいる19時30分くらいまで対応し、入浴剤や音楽で楽しんでもらっています。拒否される場合は、声の掛け方を変えたりタイミングを図り、気持ちよく入れるように工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息したり休んで頂ける環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師 薬剤師と連携を取りながら個人の薬ケース薬の説明書を利用し服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事 楽しめる事を見つけて頂き日々のレクリエーションを楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩に出かけるようにしています。外食 遠足 買物などは家族様の協力をお願いしております。	気候や天気の良い日には近隣の公園に車いすの方も散歩に出かけたり、駐車場にテーブルを出しお茶を飲む等、外気に触れる機会を大切にしています。また、コスモスや桜等の花見に行ったり、家族の協力を得て墓参りや外泊する利用者もいます。	



ニチケアセンター檀原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしています。希望に応じて使えるように支援居ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも希望に応じて自由に電話連絡できる環境作りのに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活が家族様にも見えるように色々な作品を展示し季節を感じて頂いています。	玄関やリビングに利用者で作った季節を感じられる壁絵や生花、廊下には行事の写真や折り紙で作った立体的な花を飾っています。利用者の様子や関係性を大切にテーブルの配置を考え、和室では来客と共に過ごしてもらえるスペースとして利用しています。空気清浄機を設置し毎日掃除を行い清潔を保ち、空調が直接当たらないよう工夫し温湿度管理を行い居心地の良い空間作りをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で過ごしてもらったり 又椅子を移動させて会話をしたり気楽に過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時 愛着の家具を持参してもらったり その人らしい生活の空間作りにも努めています。	自宅から使い慣れたものを持ってきてもらうよう説明し、ベッドや筆筒、テレビなどを持って来られ過ごしやすいよう配置し、家族の写真を飾っています。趣味の本を読んだりできるよう机を置いている方や家族と過ごすテーブルとイスを窓際に置くなど、その人らしい居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守る中でそれぞれの身体機能に適した形で安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしています。		